

2022年1月7日

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

**笹川スポーツ財団 スペシャルサイト『スポーツ 歴史の検証』**  
**——無形のレガシーまで視野に入れたオリンピック・パラリンピックの設計者——**

## 第104回 布村 幸彦 氏

(2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会副事務総長)

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区赤坂 理事長：渡邊一利）では、日本のスポーツの歴史を築かれてきた方々のお話をもとにスポーツの価値や意義を検証し、あるべきスポーツの未来について考えるためのスペシャルサイト「スポーツ 歴史の検証」を掲載しています。

2021年度のテーマは「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」。昨夏に行われた2020年東京大会に尽力された関係者の方々に、それぞれの立場・視点で大会を振り返っていただきます。

文部省・文部科学省で日本の教育をけん引してきた布村幸彦氏は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会副事務総長への就任を機に深まった障害者スポーツとの関わりを通じて、多様性が社会にもたらす豊かさをより多くの人々に知ってもらいたいと強く思うようになりました。願いは数々の大会関連プログラムを通じて達成され、実際に大会のレガシーとなりつつあります。

その経緯と具体的な内容に迫る本インタビューを、ぜひご一読ください。

### 「東京オリンピック・パラリンピック開催への道のり」 布村 幸彦 氏

【公開日時】2022年1月7日（金）10:00 公開

【URL】[https://www.ssf.or.jp/ssf\\_eyes/history/interview/104.html](https://www.ssf.or.jp/ssf_eyes/history/interview/104.html)

スポーツ歴史の検証
 で検索ください！



【主な内容】東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた3つの広がり／パラリンピック開催に感じていた大きな意義／不祥事やコロナ禍で困難を極めた組織委員会への理解／課題もあった組織委員会のガバナンス／パラリンピックが“心のバリアフリー”のきっかけに／オリパラ開催後の日本スポーツ界と社会変革／今後の課題となるレガシーの生かし方

《プロフィール》

#### 布村 幸彦 (ぬのむら ゆきひこ) 氏

1954年生まれ。1978年、東京大学法学部を卒業。文部省（現・文部科学省）に入庁し、文部科学省スポーツ・青少年局長などを経て、2014年、幸彦氏、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会副事務総長に就任。2020年東京大会の開催実現とレガシー創出に大きく貢献する。

#### 佐野 慎輔 (さの しんすけ) 氏 / インタビュアー

1954年生まれ。産経新聞客員論説委員、尚美学園大学スポーツマネジメント学部教授、笹川スポーツ財団理事／特別上席研究員。スポーツ記者を30年以上経験し、日本オリンピックアカデミー理事、野球殿堂競技者表彰委員を務める。

＜スポーツ歴史の検証＞概要

【企画制作】公益財団法人笹川スポーツ財団

【後援】スポーツ庁、東京都、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会ほか

【特別協力】株式会社アシックス